



神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク 会報第2号

KANAGAWA Rescue Support Bike Network News

1999年3月14日号, No.2

第2号の目次

- 1、震災時活動の研究に向けて ~震災時活動研究分科会~
- 2、神奈川RB運営会議から(1999/2/7)
- 3、アドバイザーとの相談会(1999/2/25)
- 4、自衛隊富士学校オフロード訓練(1999/2/27~28)
- 5、神奈川RBメンバーの突入レポート
 - 配食ボランティア参加レポート(1999/2/20)
 - 小田原災害ボランティアネットワーク講演会(1999/2/21)
- 6、神奈川RB定例ミーティング、分科会報告(1999/3/7)
- 7、神奈川RB会員への緊急告知、お知らせ
- 8、いり2のコラムVol.2
- 9、編集後記/お問い合わせは

震災時活動の研究に向けて

神奈川RB副代表 震災時活動研究分科会リーダー 中島信義

なぜ今年の活動が「震災時活動研究」なのか

神奈川RBの「震災時に役に立ちたい！」

この熱い思いから、昨年1年間は試行錯誤しながら神奈川RBの活動基盤を模索してきました。

1999年1月の神奈川RB設立を機に、今年は自分達で考えた「多くのメンバーが積極的に関心を持って

参加できるような自主的な活動計画の実践を具体化してみよう」という気持ちのもと、神奈川県下の各防災関連機関が地震想定し、訓練強化が推進されている「神奈川県西部地震」に焦点を合わせた「震災時活動の研究」をテーマとして掲げることになりました。

この「神奈川県西部地震」は、ご存知のとおり関係学会において最も発生確率の高い地震のひとつです。この想定は神奈川RBメンバーが自分自身の課題として正面から取り組む必要に迫られているのが実情だとも言えます。さらに、研究して感じた様々な課題を「図上シミュレーション」や「実地訓練(小田原地域)」を通じて、神奈川RBメンバーの「行動手順のマニュアル化」や地図情報をベースとした「活動関連情報の研究・整理・行動規範の構築を」との声が高まっている背景から、今回のテーマ設定となりました。

まず最初の目標として、メンバー自らが「バイク・情報・ボランティア」のキーワードを震災時にどのようにバランスよく支援活動が実行できるか、その活動手順と体制作りを図上シミュレーションや実践的研究活動を通じてマニュアル化をしたいと思います。バイクにまたがることも、バイク隊のサポート役もみなさんが参加できる活動内容はたくさんあります。これら研究会を通じて自分の役割を見つけられるよう、サポートしていきたいと考えています。

2/7 神奈川RB運営会議から

報告者: 山本泰彦

1999年2月7日、えびな市民活動サポートセンター2階フリースペースにおいて、設立後第1回目の運営会議が行われました。

話し合われた内容としては

- 1、メーリングリスト(ML)のフリートーク化(入佐)(鈴木)
インターネット環境を持っている人同士の情報伝達の手法検討
メーリングリストを2つ立ち上げへ(連絡用とフリートーク用)
- 2、神奈川RB内規について(伊藤)
- 3、関係機関、行政などに対する資料、事務作業の件(伊藤)
- 4、神奈川RB会員証(永山)
- 5、連絡網について(岩崎)
- 6、震災時活動体制の確立(岡崎)
- 7、年間テーマの展開について(中島)

震災時活動研究分科会の年間スケジュールとして次のようなものが提案されました。このスケジュールを当初の年間計画におりませ、具体的なイベント、訓練等を開催します。

震災時活動研究分科会年間スケジュール案

- 3月20日: 第1回神奈川西部地震(図上)シミュレーション
- 4月: 分科会に上記問題点、課題の提案(各分科会・支部会毎)
- 5月: 分科会・支部リーダーによる報告と課題の見直し討論会
- 6月: 第2回関東南部地震or 相模湾地震(図上)シミュレーション
- 7月: 4月に同じ
- 8月: 5月に同じ
第1回と比較してスキルアップした部分、していない部分の評価
- 9月1日: 震災記念日
第3回実地訓練(小田原を想定した現地集合実験)
(図上シミュレーションでの様々な課題の検証を実地体験)
このときに県外RBとの連携行動を行動マニュアルにそって検証
- 10月: 実地訓練の問題点整理、分科会・支部会への提案
(新たな課題の抽出など)
- 11月: 分科会・支部会リーダーによる検討結果の報告
- 12月: 上記3回の研究活動のまとめ
講師の井上氏、杉原氏出席のもと検討、講評を仰ぐ
- 2000年1月: 第2回神奈川RB総会
総会当日午後、震災時活動研究分科会記念報告会

8、シミュレーション図上訓練について(谷内)

3月20日(土)10:00~

神奈川県民活動サポートセンター15階交流ラウンジで

9、1/10のオリエンテーションの反省(谷内)

10、各イベント準備内容確認、4～5月の活動予定案(谷内)(原)

4月以降の活動 イベント、訓練の準備状況の報告です。皆さんのお力をお貸しください。

活動予定(担当者) 詳細は別紙にて

3月7日: 定例会、オリエンテーション、分科会

4月4日: 分科会(詳細は3月の定例 分科会で決定)

4月24日: 第3回オフロード走行訓練(太田)

走ろう会の扱いについて

基本的に第4土曜日または、その後の日曜日のどちらかに開催

4月: 救急救命講習(石井、谷内)

上級救命講習を計画中。

5月9日: 運営会議

5月22、23日: 第2回RB合同キャンプ(ブロックRB単位でまとめる)

神奈川RB 内部担当(占部)(北村)(加藤)(内藤)

他RB担当(山本)(谷内)

6月6日: 定例会、オリエンテーション、分科会

11、会報の扱いについて(山本)

12、次回定例会の議長選出(伊藤)

議長は次の議長を指名して会議を終了。

2/25 アドバイザとの相談会

報告者: 谷内太一

1999年2月25日の夜、かながわ県民活動サポートセンター10階にて神奈川RBのアドバイザでもある荻原様、田嶋様と今後の走行訓練に対する準備や神奈川県警との交流についてお話しする機会を作って頂きました。昨年は2回にわたり県警白バイ隊の田嶋様に、オフロード走行訓練をボランティアで指導して頂きましたが、晴れて神奈川RBも設立を迎え、正式に白バイ隊の方に継続的なご指導をお願いすることに致しました。

お二人からは「皆さんの活動を見てきましたが、すばらしいと思います。これからも大いに力になりたいと思いますので、震災時に少しでも役立てるよう一緒にがんばりましょう。」との激励の言葉と共に、3月8日に県警白バイ隊隊長にお会いする席を設けて頂きました。

そこで「震災時の救援活動支援を考える神奈川RBでは、メンバー自身の安全運転意識と技術向上の為に、白バイ隊の方々にご指導いただきたい」との旨をお伝えに行くことに致しました。

これからも、私達の思いと活動をご理解いただけるよう、走行訓練に参加し続けましょう。

2/27～28 自衛隊富士学校オフロード訓練

情報提供者: 小林大輔

2月27～28日、御殿場の陸上自衛隊富士学校でオフロード訓練が行われました。この訓練は沼津RBが中心となって進められたもので、神奈川RBからも7名が参加しました。



心配されたお天気も午前中に雨が止み、絶好のオフロード日和になりました。走行訓練では参加者全体を、上級、中級、初級の3つに分け



て訓練を行いました。富士演習場は好天により地面もかなり乾いていました。土質はフカフカで、すぐにスタックしてしまいました。プロの方でも押すくらいのものでした。



最初は楽しくわいわいやっていたのですが、難易度は高く、RB隊員はだんだん自分達のおかれている状況に気づいてきたのでした。



演習場の雰囲気ですが、「殺風景な所」というところ。所々戦車のキャタピラの跡もあり戦場の様な雰囲気もありました。

1日目は訓練終了後、資料室見学させていただきました。

走行訓練は2日間ともほぼ同じエリアで行われました。ただ2日目は地面が凍結して締まっていた為に若干走りやすかったと思います。



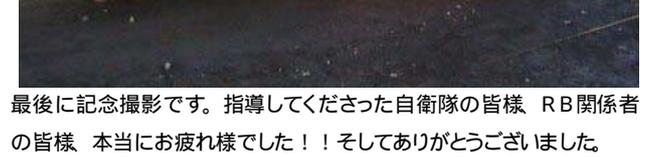
道中、倒木があり、皆で退けようとしたのですがその先が通行止めだった為、Uターンして別のルートへ向かいました。

その際も自衛隊偵察隊の方々は相互に無線で連絡を取り合っているのがスムーズに運びました。



28日の午後はバイクに乗りたい組と構内見学組に別れて行動致しました。見学組は様々な自衛隊車両を見せてもらいました。

また昨年の横須賀親子キャンプでも活躍しました水タンク車と飯炊きマシーンもありました。一度に200食分の御飯を走行しながら作る事が出来る優れモノだそうで、全国RBで200人参加するイベントにしたら炊き出ししてもらえるかも知れませんね。



でも、こういう車両達は常に駐屯地にいてもらいたいモノです。

最後に記念撮影です。指導して下さった自衛隊の皆様、RB関係者の皆様、本当にお疲れ様でした！！そしてありがとうございました。

神奈川RBメンバーの突入レポ

神奈川RBのメンバーが様々なイベントや講演会、ボランティア活動に参加したレポートを一挙に公開します。

2/20 配食ボランティア参加報告

報告者： 入佐俊明

2月20日(土) 横浜市南区南太田にある清水ヶ丘地域ケアセンターで毎週土曜日に行われている夕食(弁当)の配食のボランティアに参加してきました。

京急南太田駅周辺の約20件のお宅に配食するそうで、そのうちの7件を普段回っている人と一緒に回ってきました。

(新聞配達のように)

(三つのエリアに分けて回っているとのこと)

1回分が¥550で弁当を渡してお金を貰い、一言二言話をして各家を回るという内容で往復の移動時間も含めて1時間もかからないような作業でした。

一人暮らしの方が多い中少ししか話をしないのはちょっとさびしいけど、暖かい弁当を渡したい事もあり難しいところだと思います。普段回っているせいか、家に到着すると「おばちゃん」と声を掛けながら勝手に玄関を開けて入っていく様子は、ちょっと変です。

この弁当を配るという作業は、一年以上前から続けているそうです。この作業を行う人の名簿を見せてくれたが10名くらいしかいませんでした。そのうち、毎週のように参加されている人は、3~4人くらいしかいないそうです。

弁当を配って回った場所は、南太田駅より山側に入りどんどん商店街より少し奥に入った近辺でした。この辺りは道が狭く車で移動するのは大変。そんな時にはバイクかもしれないけど、バイクでも1台しか通れないような場所や、バイクで行くにはちょっと大変そうな場所もありました。次回は別のエリアに参加して回ります。

では、次回の報告を待て！

2/21 小田原災害ボラネット講演会、討論会報告

報告者： 山田泰

小田原災害ボランティアネットワークの講演会、討論会に参加しましたので報告いたします。

1、日時：1999年2月20日(土) 13:30~16:30

2、場所：小田原市川東タウンセンター マロニエ

3、内容：13:30~ 災害時におけるアマチュア無線の役割

講師：JARL 神奈川県支部 堀江喜一郎氏

14:30~ グループ討論

講師：駒門災害派遣進出経路情報ネットワーク 吉原聡氏

(災害時に役立つ地図について)

4、参加人員：13名(小田原市11名うち女性1名、他地域2名)

無線団体参加者：神奈川かもめ会無線クラブ

小田原災害ボランティアネットワーク事務局 夏目孝茂氏

内容詳細・感想

1)災害時のアマチュア無線の役割について

・災害時のハムの役割は大きい。是非多くの方に免許の取得を、

業務用無線(災害用を含む)は許可された周波数が極めてわずか
・ハムに限られたスポット周波数ではなく多くの周波数帯を自由に使用
できるため各防災機関でも補助通信手段として整備

今後の課題

・交信経験を積む。

・使用周波数をあらかじめ決め、日常使用して交信可能距離など知っておくことが大事

感想

・KRBでも多くのハム局が誕生している。今年は無線のイベントをやるべきでは。発電機とアンテナを持ってどこか手近な山の上から電波を出してみよう。

2)グループ討論

・小田原被災時には自衛隊駒門駐屯地第1特科連隊が救援出動

・このとき小田原からは早い救援のために予定道路の通行可否情報を送りたい。どのように説明すると間違いなく送れるかを地図の面から検討

問題点と解決案

・災害時には被災エリア内の町並が一変するため場所特定が困難。

・地図によって記載内容が異なるため目的の場所にたどり着けない。

・解決のための1案として自衛隊の地図の紹介・説明

感想

・出来るだけ多くの主要避難場所、防災拠点を確認し土地勘を養いたと感じた。シミュレーション後、実践訓練が必要。

・地図については横浜市が消防、警察、自衛隊、海保が共通防災地図を作成中とのこと。

3/7 定例ミーティング報告

報告者： 山本泰彦

1999年3月6日、かながわ県民活動サポートセンター10階フリースペースにて神奈川RB定例会議が行われました。定例会議の話題としては2月の運営会議の内容やプロジェクト、分科会の活動などから次のようなものがありました。

1、1~2月期の活動の反省

- ・設立総会
- ・設立記念講演会
- ・防災ギャザリング参加

2、分科会活動報告

2-1、バイク分科会報告

- ・2/25、荻原氏、田嶋氏との打ち合わせ報告と今後の予定。
- ・4月のオフロード走行訓練準備。
- ・神奈川RBお気楽ツーリング「走ろう会」予定
- 3月走ろう会(3/27、8時国府津PA集合):西伊豆、イチゴ狩り
- 6月走ろう会(6/26):ハッ岳(清里) 15人宿泊OK

2-2、情報通信分科会

2-3、震災時活動研究分科会

- ・図上シミュレーション 3/20の準備状況、進行、今後の展開

3、インターネット会員のメーリングリストについて

- ・業務連絡用とフリートークの2本だでの方向へ。



4、内規案審議

内容は(伊藤)の内規案がまとまった時点で改めて公開

5、運営・プロジェクト関連報告

5 - 1、分科会の内容

5 - 2、RB合同キャンプ

プロジェクト立ち上げ

3/20打ち合わせ

3/20までに掲示板たちあげ、RB間調整

5 - 3、事務局関連

会報

緊急連絡網: 会費発送を併せて送付。対象者: 会員全員

会費: 39名納入済み。残金: 155,502円(3月7日現在)

海老名サポートセンターロッカー管理引継ぎ:(石井)後任

連絡網練習

近隣RB合同キャンプの集合場所、時間の伝達、4月後半に実施

5 - 4、インフォメーション

9月1日、南足柄防災訓練に県から参加要請。会として参加するかは検討する必要がある。

6、上級救命講習会の日程

10月に1回開催で、他の月の日程は情報を提供し、各自で参加を。

7、4月～6月の活動予定のまとめ(主なもの)

4月4日 分科会(海老名)

4月24日 第3回オフロード走行訓練(相模川河川敷)

5月9日 運営会議・分科会(海老名)

5月22～23日 近隣RB合同キャンプ(連絡網で連絡)

6月6日 定例会・分科会(横浜)

6月26日 神奈川RBお気楽ツーリング走ろう会(ハケ岳・清里)

6月(予定) 第2回シミュレーション訓練(予定)

上記以外に、日赤田島様による、ボランティアのための救護法研修会が毎月第3火曜日(4月より変更)に開催

(緊急案件) 神奈川RB会員の皆様へ 内規運用に関する決議についての告知

神奈川RB事務局長 原俊介

神奈川RB会員には別紙にて、神奈川RB規約に準じ、運営を円滑に行うために検討された神奈川RB内規案を同封しております。その運用に対する承認決議を急遽執行することになりましたので、告知致します。

同封の内規案に目を通していただき、内容や運用に対して**反対意見、ご質問等**がありましたら、**神奈川RB事務局までFAX、郵送、電子メール等でご連絡ください。**

なお、**内規案に対する決議は皆様からの反対、賛成のご返答をもとに集計致しますので、1999年5月未だまでにご連絡ください。**

また、**ご返答の無い場合には「賛成」という扱いにさせていただきます**のであらかじめご了承ください。集計結果は6月の定例会議で報告致します。さらに、それまでの期間(6月までの3ヶ月間)は、**内規案を暫定運用する形を取らせていただきます。**

お知らせ

近隣RB合同キャンプの案内は連絡網で

5月22～23日に予定されています近隣RB合同キャンプの詳細は、同封されている神奈川RB連絡網を使い、**連絡網実験をかねてご案内したいと思います。**連絡網での案内は4月末に実施予定です。いざというとき連絡を確実に取るためには日頃の連絡も重要です。皆様のご協力をお願いします。

神奈川RBお気楽ツーリング「走ろう会」3月ツーリング案内

日時: 3月27日(土) 8:00 西湘バイパス国府津PA集合!

目的: **いちご狩り in 西伊豆.....ん**で、恋人岬でぶらぶらかっふるを蹴散らし、鐘をがんがん鳴らしてごよう(^^)!

連絡先 : 太田 E-mail: ma.chan@mvh.biglobe.ne.jp

Tel: 090-4817-3066 / 045-894-8742

「走ろう会」は、ボランティアもなーんにも関係ない、神奈川RB親睦の為のツーリング企画です。神奈川RB以外の友達・家族も誘って、気楽に参加して下さい。(雨天中止)

いり2のコラムVol.2

いり2(神奈川RB 副代表 入佐俊明)

「ボランティアの基地」

震災当初から、この4年間にボランティアとして神戸市長田区にある鷹取救援基地を訪れた人は5000人にもなるそうだ。

いり2も基地があったお陰で長い間活動できたし、1日1日を一生懸命に活動できたと思う。

ボランティアをするには、休む場所、食べる場所が確保できていなければ、自分達がまともに活動できなくなる。これはとても大事な事だ。

「被災者に接して、役に立ちたい」という気持ちは分かるが、**そのボランティアのお世話をする仕事も、またボランティアである**

それを分からずに戻ってしまうボランティアもいる。

もう少し考えて欲しい。

たとえば、一人で乗り込んで活動して、帰って、食事して、休んで、活動してと繰り返しても、自分の方が先にダウンしてしまうだろう。

基地での世話係というものは直接的ではないが、多に貢献している縁の下での力持ちではないだろうか。

いり2のコラムVol.3予告「ボランティアとは?」

乞う御期待

お問い合わせは

神奈川RB事務局

郵送先: 〒221 0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

かながわ県民活動サポートセンターレターケース No.81

Tel: 0462 47 7884(事務局加藤宅)

Fax: 0462 47 9539(事務局加藤宅)

URL: <http://cools.com/kanagawarb> E-mail: 52379663@people.or.jp

神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク会報(年4回発行)

発行者: 神奈川RB会報担当 松井嘉夫 山本泰彦